

平成 20 年 10 月 2 日

各 位

会 社 名 三菱マテリアル株式会社
代表者名 取締役社長 井手 明彦
(コード番号 5711 東・大証第1部)
問合せ先 広報・IR 室副室長 鈴木 徹
(TEL 03-5252-5206)

カナダ国シミルコ銅鉱山再開発に関する基本合意について

三菱マテリアル株式会社(社長:井手明彦、資本金:1,194億円)は、2008年9月30日付で、Copper Mountain Mining Corporation(本社:カナダ国ブリティッシュコロンビア州バンクーバー、代表者:Jim O'Rourke、以下「Copper Mountain 社」と、シミルコ銅鉱山を共同で再開発することを前提に協議を進めることで基本合意しましたのでお知らせ致します。

記

1. 経緯

シミルコ銅鉱山は1923年に操業を開始し、1996年に低銅価を理由に休山してしました。今回の再開発プロジェクトは、既存のインフラが利用可能なため、新規投資額が大幅に抑えられ、開発期間の短縮化が可能という優位性を持っています。また、当社は、休山前に産出された銅精鉱のほぼ全量をメインソースのひとつとして購入・処理していた実績があります。

一方、当社は銅製錬原料の安定確保を目的として、優良な銅鉱山開発案件への参画に積極的に取り組んできたところ、前記優位性を有する今回の再開発プロジェクトについて、Copper Mountain 社が実施した経済性評価(FS)に基づいて協議を続けてきた結果、基本合意に達したものです。

2. 基本合意の概要

当社は、プロジェクトの建設・操業に関わる許認可や環境許認可が適切に取得されることや、当社取締役会で承認されること等を条件に、シミルコ銅鉱山の権益を有する Similco Mines Ltd.(Copper Mountain 社の100%子会社、以下「シミルコ社」)の第三者割当増資を28.75百万カナダドル(約29億円*)で引き受けることにより、シミルコ社の株式25%を保有するほか、シミルコ銅鉱山再開発資金の一部として250百万カナダドル分(約253億円*)の融資手配などを行います。また、シミルコ銅鉱山の操業再開後に産出される年間約15万トンの銅精鉱については、当社が全量引き取る権利を確保します。

今後、当社と Copper Mountain 社は、本合意に基づき、株主間協定書等の締結に向けて協議を継続していきます。

3. 銅原料確保に関する取組み

当社は現在、ロス・ペランブレス銅鉱山（チリ）、エスコンディータ銅鉱山（チリ）、ハックルベリー銅鉱山（カナダ）、バツ・ヒジャウ銅鉱山（インドネシア）の4つの銅鉱山に投資している他、フィジー諸島共和国にて、日鉄鉱業社、**Newcrest Mining** 社と共同でナモシ探鉱プロジェクトを推進しています。また、オーストラリア連邦（豪州）においても **Minotaur** 社、三菱商事社などと共同で2件の銅・金探鉱プロジェクトを推進しています。当社は銅製錬原料の安定確保並びに銅事業の収益安定化の観点から、今後も探鉱の推進と銅鉱山権益の確保に積極的に取り組んで参ります。

* 1 カナダドル=101円にて為替換算

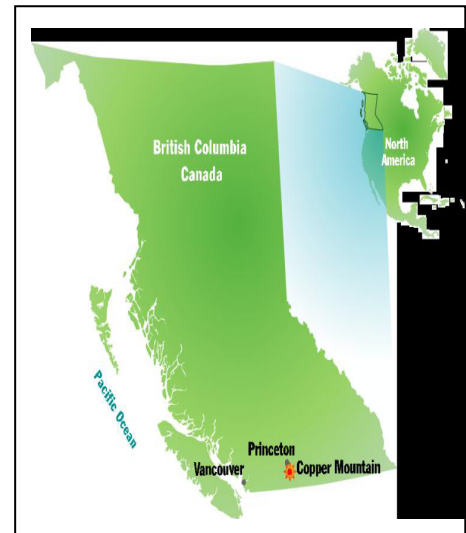
4. その他

- ①本件が今期の当社業績に与える影響は軽微です。
- ②本件は、トロント証券取引所に上場している **Copper Mountain** 社が、日本時間の 10 月 1 日夜に本件の情報開示を行ったことに伴い、発表するものです。

(ご参考)

シミルコ銅鉱山再開発プロジェクト概要

- 権益保有者 Copper Mountain 社
(カナダ・バンクーバー)
100%
- 位置及び地勢 カナダ・ブリティッシュ
コロンビア州の最南部
に位置するプリンス
トンの南15km、バンク
ーバーの東300km。
標高1,050～
1,300mのカッパー
・マウンテンの緩やかな
傾斜地に所在。
- 可採鉱量 176百万トン(銅品位 0.33%)
- 採掘法 露天掘り(既存3採掘場の拡張・統合)
- 生産量 精鉱量 約15万トン/年
銅 51万トン、金 10トン、銀 111トン
(操業期間14年間を想定した場合の合計)
- 起業費 457百万カナダドル(約462億円*)
- 操業開始 2011年初め



Copper Mountain 社概要

- 会社設立 2006年4月20日
- 本社所在地 カナダ国バンクーバー
- 株式上場 トロント証券取引所(一般部門)
- 代表者 Jim O'Rourke (ジム・オルーク)
- 総資産 19百万カナダドル(約19億円、2007年末現在)

以 上